

テーマ：景気動向指数（2016年2月）の予測

発表日：2016年3月31日（木）

～大幅低下で、消費増税後の最低水準更新の可能性大～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主席エコノミスト 新家 義貴
TEL:03-5221-4528

○前月差▲3.3ポイントの大幅低下を予想

内閣府から4月6日に公表される2016年2月の景気動向指数では、C I一致指数を前月差▲3.3ポイントと予想する。内訳では、鉱工業生産指数や生産財出荷指数、投資財出荷指数など、生産関連での押し下げ寄与が大きい。

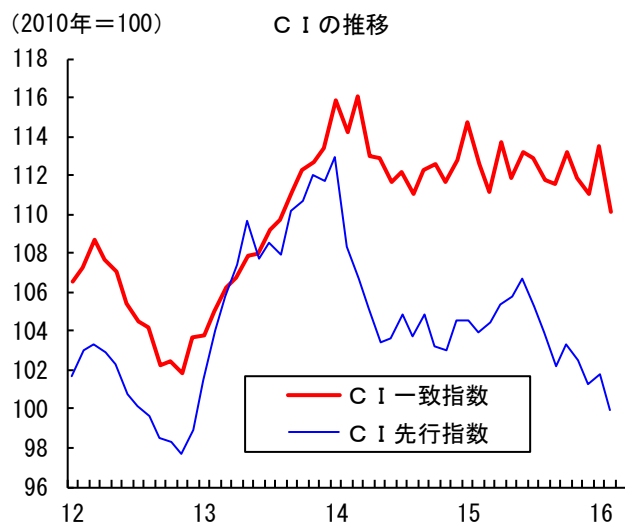
C I一致指数は、1月には前月差+2.5ポイントと高い伸びだったが、2月はその上昇分以上の落ち込みになりそうだ。C I一致指数の水準も、消費増税後のボトムを割り込み、13年8月以来の低水準になる見込みである。2月は大手自動車メーカーの生産停止という特殊要因もあったとはいえ、厳しい結果であることは間違いない。

1-3月期の減産が濃厚な鉱工業生産と同様、C I一致指数からも、1-3月期の景気が低迷したことが示唆されている。需要面からみても、個人消費や輸出、設備投資といった主要な需要項目がそろって懸念材料を抱える状況であり、景気は牽引役不在である。先行き不透明感も依然強く、景気の停滞感が解消されるには、まだ時間がかかりそうだ。

また、2月のC I先行指数は前月差▲1.8ポイントと予想する。C I先行指数は15年6月をピークに低下傾向にあり、2月は12年12月以来の低水準にまで落ち込む見込みである。2月の内訳では、新設住宅着工床面積などはプラス寄与が見込まれるが、東証株価指数や消費者態度指数、中小企業売上げ見通しD.I.などのマイナス寄与が大きくなった。C I先行指数からも、先行きの景気持ち直しは見えてこない。

○基調判断は「足踏み」維持の見込み

内閣府によるC I一致指数の基調判断は、前月に続いて「足踏み」が維持される見込みである。「足踏み」の定義は「景気拡張の動きが足踏み状態になっている可能性が高いことを示す」である。足元の景気が停滞していることが確認できる。



(出所)内閣府「景気動向指数」

(注)直近の2016年2月は第一生命経済研究所による予測値